

出会いと交流を生む 「創造発信型劇場」へ

書き手：前田圭蔵（東京芸術劇場 広報営業係長）

世田谷美術館、企画制作会社などを経て、東京芸術劇場へ。
現在は劇場全体の広報を統括している。

東京芸術劇場の開館は、バブル期真っただ中の1990年。立地場所は、かつて、脚本家の倉本聰や芥川賞作家の柴田翔も学んだ旧豊島師範学校跡地だ。近年では石田衣良の小説「池袋ウエストゲートパーク (IWGP)」の舞台としても知られ、2008年には東京メトロ副都心線池袋駅～渋谷駅間も開通、池袋西口周辺はますます活気を帯びている。

2009年7月に野田秀樹氏を芸術監督として迎え、劇場はより積極的に「創造発信型」へと舵を切る。2011年3月11日に、あの東日本大震災が起き、劇場も一時閉鎖を余儀なくされたが、「劇場に灯を！」という芸術監督の強い思いもあり、同月15日にはNODA・MAP「南へ」の上演を再開、31日には「全館改修前の最終公演！」と銘打ってのパイプオルガン・コンサートを行った後、2011年4月から2012年8月にかけて大規模な改修工に入った。

工事期間中も、“芸劇”は活動を止めなかった。雑司が谷にリニューアル準備室を構え、運営管理をしている「水天宮ピット」を会場に、若手演劇人の育成事業である芸劇eyes番外編「20年安泰。」や、野田秀樹作・演出による「THE BEE」など、創造発信



改修後のプレイハウス

拠点たる劇場としての活動を継続しつつ、2012年秋の劇場再開を準備した。

2012年9月、リニューアルした“芸劇”がついに始動。コンサートホールでは、リニューアル・オープンのプログラムとして、下野竜也指揮、読売日本交響楽団によるマーラー交響曲第2番「復活」の記念演奏会。また、芸術監督の知見なども取り入れ、より使いやすく温かみのある空間となったプレイハウスは、芸術監督自らの作・演出によるNODA・MAP第17回公演「エッグ」で幕を開けた。さらに、駅地下通路と直結したロワー広場に面するシアターイーストとシアターウエストでは、大人と子どもが一緒になって楽しめるというコンセプトのTACT/FESTIVAL 2012（「ショックヘッド・ピーター」「ひつじ」）や、若手劇団やダンサーらによる日替わりオムニバス企画「東京福袋」など多彩なラインアップが生まれ、生まれ変わった“芸劇”は大いに注目を集めることとなった。

「創造発信型」を標榜する“芸劇”が目指すべきは、ボーダーレスな出会いと交流を生み出すこと。歴史を見つめ、現在地を確かめながら、表現者や来館者と共に未来へと続く道を探っていく。



リニューアル・
オープン記念
NODA・MAP第17回
公演「エッグ」



リニューアル・
オープン記念
下野竜也&
読売日本交響楽団
マーラー交響曲
第2番「復活」



リニューアル・
オープン記念
「東京福袋」

INFORMATION

東京芸術劇場では、劇場をご利用になるすべての方の安全と安心のため、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する取り組みをおこなっています。ご来館される皆さまは、当劇場ウェブサイトの【東京芸術劇場における新型コロナウイルス感染症対策とご来館される皆さまへのお願い】や館内掲示されている注意事項などを、ご確認ください。



本号の発行が当初予定より遅れましたことをお詫び申し上げます。次号の発行は2021年4月1日を予定しています。



東京芸術劇場は、1990年に開館し、30周年を迎えました。周年を記念し、ロゴ展開や記念事業の開催などを行っています。

新型コロナウイルス感染症にかかわる諸般の事情により、掲載情報に変更がでる場合がございます。

最新情報は、東京芸術劇場や各主催者のHP等でご確認ください。